

システム名	物品管理システム	ユーザー	国立M病院
旧システムの 問題点	物品の購入伺い(見積・入札)から各部署への供用・管理までの、物品に関する管理を全て書面文書上で処理していた。物品の量が大量にあるため、その管理に窮していた。特に品目票の作成や、物品の廃棄交換処理の業務が煩雑すぎて混乱が生じていた。また物品の見積書ファイルのファイリングや物品そのものの写真を閲覧したい要望などもあった。		
メリットなど	物品購入時の伺い処理のDB化で、業務の効率化が図られ、特に物品が写真で確認できることが特殊な機器がPCで即座に確認できるようになり、担当部署にわざわざ確認をする必要がなくなった。物品の買い替え時に過去の購入時の状況が分かり予算化が容易になり、業務の効率化に繋がった。		

導入システム(運用)などについて

